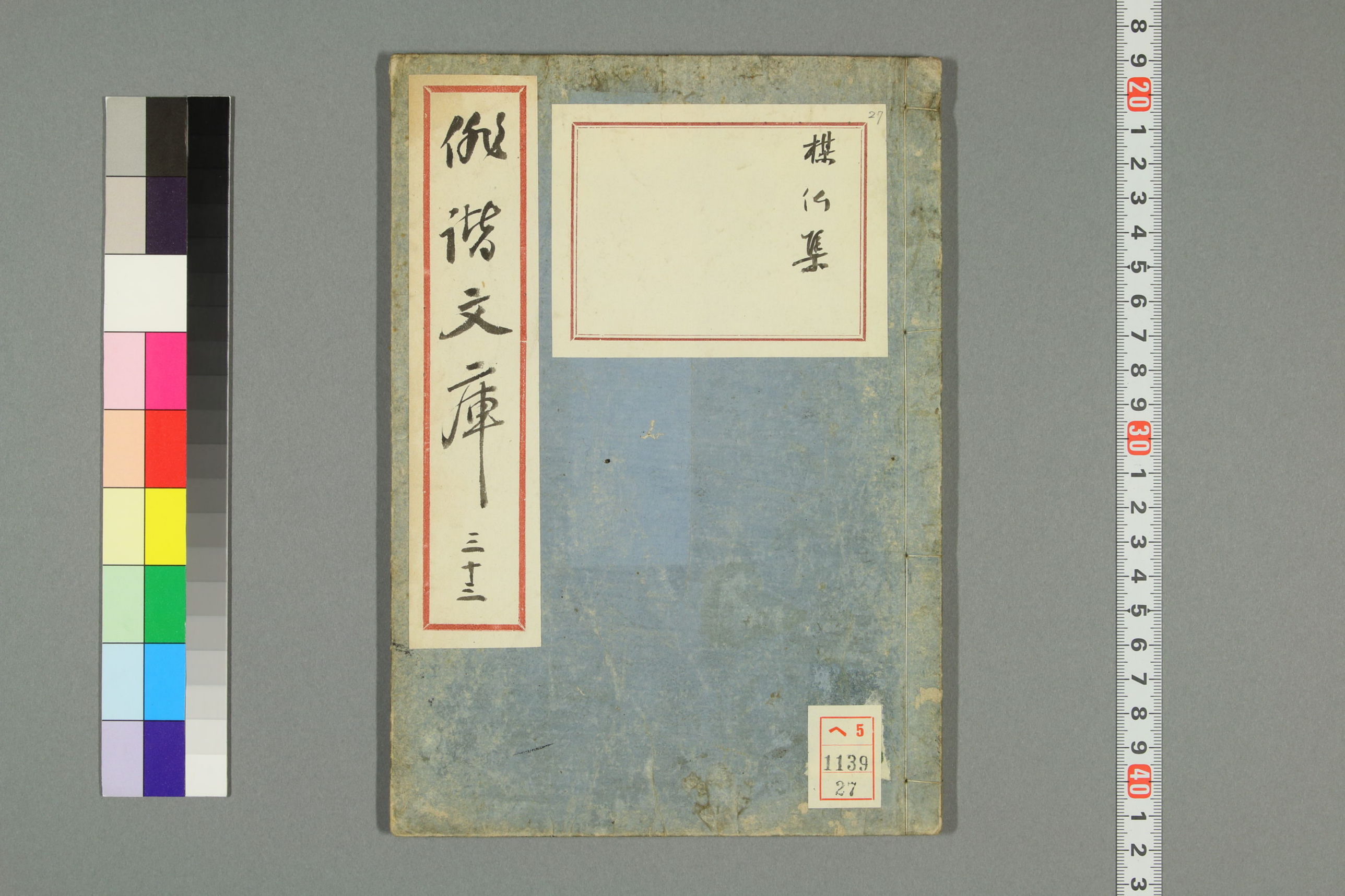

27
似猶文庫
三十三
棋仙集
へ5
1139
27

27
へ5
1139
27

序

六花苑孔藏程朱年歴器もさるを
目出度事無樹の花媚枝結実に夢りたる
風原乃弥末なん免ると彼の一枝を作よ赤き
子丹を練しら実利く堅々金石孔さる
去至実第代石杉風雅孔神よ行道学んと

栗法師正像彫刻せしと南人その
芳を感動し堂を小見つゝ元祿の花
ともに堂を細翁北海化於感多のり
ゆきくゝとき乃
そゝや梅のもれ

七十九翁
芦径

壬午春

叙由

曩尾陽有八龜法師者。於其菴室。安蕉翁之
影像。而事之。盖爲報恩謝意也。乃立宗鄉。而
吾佛集成矣。予也羨之有年。欝陶乎爲懸
思之。因結茅作菴。聊倣法師之意也。然未泊
翁之影也。于茲東都有秀盛者。工于彫刻也。
往歲辛巳秋。偶遊于予茅室。予略傳其意。已
汎依蕉圖彫生像。不用古木之楳心也。又刻

釈尊誕生之小像。共安于内陳。蓋乃故也。於是請惠日山主法印寂的叟。為導師。略沿波雲供養矣。八龍嘗乃謂曰。吾聞雖非深淵。有龍必昊。蒙〻蒙〻蒙。置我嘗之肖像。則猶猶猶來〻客。日夜不絶。豈恵蒭之不溫。過烟菅之不通哉。厥峰乃載言也。可謂誹諧成仏之人也矣。予復採擇余徒之秀句。集而成冊。命曰模佛集。又倣左法師之意也。

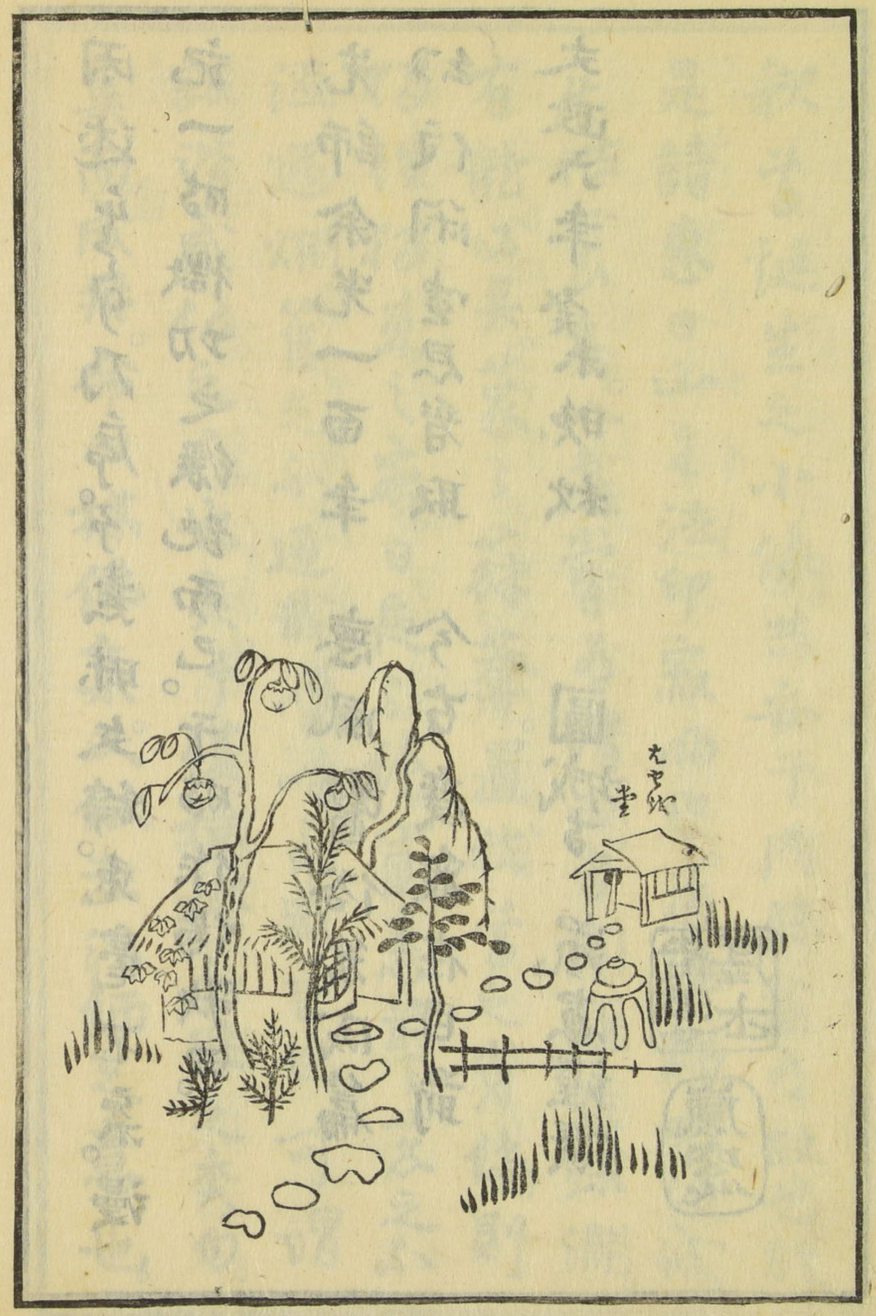
因述其乃序。予素昧文辞。兎毫不柔。漫記一時微功之縁紀而已。于時作偈歌曰。

先師余光一百年　恵風醫俗為成篇
幻住閑堂尽看取　今古度衆在目前

文政六年　癸未晩秋

圓城寺　嵐家謹撰

志波屋本
嵐家



[illegible]と面より[illegible]
面白[illegible]

芭蕉翁[illegible]扶冉俳諧好きの仁面和
所記念碑[illegible]の松尾花
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

六花苑よりの[illegible]蕉翁と安[illegible]
追善の俳席[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]

洞[illegible]
[illegible]
嵐泉
麦光
花一

佳文

芭蕉翁の手ずれ絶へぬるの秋　故人　竹友

聖なる花と山々紅葉は義の口　呼来

そや秋そや色のいろいろも咲初　江戸　六葉

そや秋そや軒端は月ぬれて鳴雀　大乙

そや秋そや鳴武士も彫宅俳　スルガ　田居

（柿仏供養の杖つくるを　笠も糸公路作）

仏とも仏ともいえん柿の色、　芙山

雨除に近き芭蕉の中ぶくれ　國多

芭蕉翁夢の夕時雨　故人　智松女

芭蕉翁や形場の苔も紅葉

義の志美事に妻と子とより

遠くとのもせかれ

そのかれ苔の笑もそこ　出羽　柿枝女

むくと仏の口の口　大坂　芙山

幸に非畫ありりおきなの口　作州　浮風

表　六弧　如山

古逸孔子の沙朱　七人

為紫ひつめく　勝と俳会　御柿

吾光

稲妻に雪のはなさは耻見へて　北化
よろこひつゝす庵りゆるん　也宅
文明の祭りに京ふるも今宵月　其恵
かゝりし而已余硯との也はし　也宅
色ニ猿はいすんりしころ
若紅葉しの土まそあり
咲る鷺やん声ありふ　淇渓
新露をうちさて捨し葉まやし　士往
行くちゆくそれもみるて桐花　苔丈
行かもあけるは花の月あかれ　林年

暁の蝋や星の小提灯ろ　祇岳
そ新まゝ絆に角比なしか奈良の藤　巴眠
心すむひろそいれのきりしれ　雲可
下関や新火深とに日比岩梨　高貝
秋比風往むしいと子比経え　メや
蹈むとの物に書付をかの山　千石
六花菴にして
日光山御師
むかし来て我の雨に月園に月　図為
行比いめきのはやとまてる柏杷　菴主

分離苔も紅葉もうちまぜ
物をいはんもやれ屑の中
股川は名をたづぬる雨のくれ　みを
山の内程を雪よりはやや　を

下略

来てもゆきても山をうち赤竜の雲　書也
下ゆつ〳〵雨名は言葉をうりり　洗竹
約うたよ約速〳〵紅葉は　古友
鉢よ酒このう〳〵も形ぶ今うれ　布隈

鶯言〳〵柳よりそ小るうれ　明みを
多枝は岡里〳〵物を行ふへよ　嘉也
城〳〵ゆ〳〵梅の一不姉さ　四令
射鉢法の家は繕ふ社新い　去月
おとつ里も稀よおもしや義の杉　凡一
山茶花の赤きよみを初めり　八桂

嘉六孫

初花のあと新ふ枝のうれ　石亀
屑物ふよ月のおけまり　去月

伝保姫を拝く極はは廚女斗むし〜
邦の長の 時〜を 見る〜
業比喜の拝も果さたひ時る
日のみ〜りよりはも やぬふゆ
そそ金目の和法
冷やうれ月れ立りはるて
時ぬさへ淋し拝賀れみうん スルガ
ひとはる通〜る高武の時、
時比月四れ〜結ふよえい、

月年 九一 義一 光忠 第巳 稜波 千冨 完甫

的は高根的の白のうう富士比也
拝比和よ多ふふて孫く小野比
西的ふ結ひ拝〜あふ垣のもと
拝よ月秋面白き世をるうぬ スルガ
大仏と雪ふおけれて弓比形り 九月
みう和ふ寿さ梅ふぬよ人の多 釈

歌仏

邦へ比使りも左と〜西下やく 波多野
遠ふ下〜拝ふて閑敬ふ伯

的 蓮 也 西京 関二 蓮天

波多野 野星 菴ふ

旅人よ紅の唐紙張さて
張紙の月の色きき煙のしつ
忘れ多き茶の稀ふ埋み
紙に味わふとこの世のあふ

六花花稿に問ひ尾花皆
更衣に問ひ花桃
名月に問ひ松色
石会に問ひ人も外
日比更に問ひ白髪の菜

星
色
星
色
イヅ

的角や出に消ゆる山の曲寂 釈
樹に木瓜山つゝ花ゝ
船出りて舟ふあらも 郭公
仰ふる風 振と日の影ふ石蝶
訪庵に栗問といふ松の風
きりゝに汗りて妙ふ

敬人

懐山
冊本
義可
鬼柳
友賀

蕉

花
懐
冊
義
鬼
友

蕉
加年

水昇花いとゝ儲てとゝ
花をもゝ尾繁ふ花をも
枝ゝ月の塵の行そと
引枝花をもの裾をすり行
六花花と花ゝ二月
をと緑と一日おそく白花
二度同ゝ雨とぬり稲花
白花和おうつゝとたふ松ゝ
穂穀と蕎と食ひつゝ蕎花秋

敬花
魚子
釈 維ふ原
之ふ春

あ花をゝ白を俗ゝ沙玉花
花と蜂ゝ蜂ゝ余り蕎花稲
又ゝ白花花の中ゝ二日月
塩ゝ蜂を文ゝ東ゝ月
ゝ白花ゝ逆ゝ逆ゝ
裏花屋格と小るのゝ竜
游ゝ角又ゝ日の小ゝ小

入花花賀

昭あゝて人あゝ屋の蒲ゝ

八重咲
蜘蛛
輝月
萩 里晩
沙斗
雪花
晩松
滑水

夜寒さに紙すゝりゐる音のね　庵之

後ハ歩ゆ内裏拍子の鴨の声に　故人　友旅

月落て名も水深くとそとむ　梅好

飛石もすゑして月をまつ川　実策

驚かれどりつく窓の明からし　延齢

扱かふて給兎らる雉氷鉢　桃色

ぬりぬれ麦う投郷の外　蘭好

右一順下略

春雨をゝ安ゞよ書をかし　亀遊

松影に星見付寄り菊の茶　花陀

冬に枝ふ人の気さよ鼻ふの月　東溪

春風の人に呼ぶひゞし山ゆかし　月舟

おもしろき正月大雪に菊の袖　左丈

修行ふ人のこゝろに初しき節　未二

子供等に余り證くる外の夢　几和

長閑さい皆眠たし桜くの肌　古の女

人の家をせかゝ嫁ゐ花のてふ　賜石

取る年も寿ゝ将扇る柳一の字　求古

一　萩窟洞ニ宿りて

桧桜わかにも訓練め鶴鶉　洞し

しらきれ宗のまくしと千気　咒意

岩木積躰に走子もやひしく　し

新れつ月冬に継くもけよりり　志

月洒てしいかに乙鳥の継る也　し

て主れ桐の天下に釣夢　意

客伝もしつ

うりしくと柳に妻れくれもより　松貞

新葉に日れちかきと小蝶ら　松碧女

ひや千草の匂ひ瀬深よ棒たりね　卧意

藻風に多くかれ本藤に向ふふ色　釈　白逸

菜れ花や裏道無く猿也し　全系

年毎に音ふかずめさむる薬多し　釈　魚兔

三月ゟ三人よれを花の咎色　一お

おほうずや七泉桜の梅に来ふれ八重森　花杏

川なのれ紀たすり帰鰍らるれ　路地

営やいきさ野まゆてた振かり　積杖

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]

六花花[illegible]

萬[illegible]平[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

加儀　芦丘

菴[illegible]　肥[illegible]　[illegible]　[illegible]　麦吹　撫[illegible]

[illegible]のつすもりの[illegible]富士[illegible]波
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

是盛　[illegible]　錦[illegible]　和素　園[illegible]　栃[illegible]　槐[illegible]　有菜

[illegible]れる[illegible]

自鏡よりおのうのうれと神うよ　貞永

錦やテの了間と松の春　九条

去六帰　石屋

山吹花ゝ一火種よ船ゝきう　俊成卿

[illegible]ゝよゝ[illegible]日[illegible]　菊池

帆柱とくも祝うとうらゝふ　御

[illegible]花の苦も移よ　良

波のゝ家[illegible]磯よ知は月の新　御

[illegible]

御この橋つゝもいとふて止　良

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]也鶯鶯　イヅ

[illegible]おゝ[illegible]屋れ[illegible]心、　和泉

[illegible]日ゝ日ゝよ[illegible]ゝ、　柳原

山吹よ[illegible]のうけ汲むゝ屋、　極蓮

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]、　志摩

[illegible]の[illegible]雨の[illegible]、　雪ヶ

[illegible]の枝つけゝ地[illegible]、　柳原

[illegible]ゝ月ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ、　[illegible]石

眼よりぬけてほとんどの人のおもひ　スルガ　如梁

八月一日の日辞世

忘月ぬけてゝ古郷へ急きけり　保子

長岡さふ又を思ふ人ゆゑ　新　一瓢

詰人よ雲子と雲ゝゆ花櫻、　有鶴

明細ゝもいとゝの雲雀　尾州　蒙来

表六俳

貸金を行方時の弱法師　菴々

いとゝ人目も祇園ゝ町　ハリマ仏師　月々

酒筆ゝん蕎麦紙ひの解鶴　々

寄ゝけゝ毎ゝ毎ゝ　鳥

夢ゝ月ふ雲ゝ思ゝ　々

寄ゝく舞ふ思ゝ屋ゝかゝゝ　鳥

下略

雲ゝ迫ゝゝなげて而白き　八丈　伝左

雲ゝと雲ゝ生ゝ生ゝ佐ゝ本屋の秋　ミヤノグ　爰南

松笠よ粥炊いわやこゝん子多　スルガ　蕉車

このよ泊ゝゝ小舟ゝ屋ゝ月ゝ、　古牛

秋立て此のかた人々の月百、　四扉

蕃とも風流の道なるべきと

都なりしかども此の気象なる事

此の句や物語なる事なるべ　士峻

しかるべきなるべし　禁　紙　梅の花　晴湖

為に此中より清水流れ出る小　江戸　南角

梅の花の庵の前と称する所に　文星

咲きぬ雨より此方小蛙鳴　萩之

東都その風交

来り所此年四年の春蕃書調

所なりと称するもの多し一系の戸　米仲

所なりけり絲四女殺尼東追風に　晃志

訓てる旅の気とせるなり　仲

唐北とも先て開し秋まの月　志

司馬郭ひとりなる志あるも

こゝ十年のひとり

あらぬ白り梅の梢の垂るる枕　柳志

六花苑のゆあみ豆おけ沐浴の
ゆふさると極て一宿の繁昌
しうそのとあくて四枝七流と

夢をうとおもひて作れかとき
月ひとり儀なものあり山の尾　笑俗
きり晴や目ふたぬ本仏の水表　雪花
宮浜橋や頭うよ表よ表の風　風流坊
おもふ程絵とうとうり社の月　釈　飯匠
三湾を巴り山ふちちうり　羽山
野修や蓋根うり天雲のふた　無心
スルガ　桂坡

山茶花や旦那ゝ咲くえせらふ、　竹十
町中北橋うえつきの海、　去留
袷えうえふ形ふ　ゝ　ゝ　ゝ
咲竹竹堀を遍うう　ゝ　ゝ　ゝ
表六俳　ゝ　ゝ　ゝ

竹入寺日北時うう板壁ゝ　紙屋
あををしきうう蓋をの詩　素光
あらんしえ旅北月高や梅らん　竹友
毛きれ酒ゝせう新ちふ　和俳

[illegible]月の[illegible]　　魚ハミ　○　○

[illegible]のやに　つゆ[illegible]　祖板　○　○

竹[illegible]を余り[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]の[illegible]故[illegible]園を[illegible]人の
[illegible]

世[illegible]中やへの[illegible]　信[illegible]　梨[illegible]

[illegible]の[illegible]　八朗

[illegible]園と[illegible]　沙弥　吏牛

竹の[illegible]　左　[illegible]雄

[illegible]　[illegible]沙弥　太楊

[illegible]　[illegible]沙弥　海[illegible]

[illegible]　ユド　寒松

[illegible]　[illegible]山

[illegible]　[illegible]　太[illegible]

[illegible]　[illegible]　護物

[illegible]　[illegible]　楊[illegible]

[illegible]　[illegible]　維啄

川[illegible]川[illegible]

三月花やくもゐ[illegible]より　乙因
春の海ゆるゝ風ふくころ　鬼志
竹樹ゆるゝと春のうげつ　雪の
紙を結びてつかうやぶ蚊　因志
たゝき新聖ゆふと仕使ひ　志
ちもとうへうを呼うるゆき　一の

下略

尾州

ゝの花もつ姫と唐ゝし　塊菊
ちもまもとまつとれやゝ枯の花、　足彦

秋風や小山をさゝゝ龍のこゝろ　京　雪雄
秋雲や今日は何ふたゝゝ紀　江戸　舊雨
朝霧を篝をふ雲の名残うれ　カワサ　白先
るく明者不ちうゝ枯の巻　雪三
何事ぞ嘲れまるいさ紙人　黒文
嬢ちゝゝ花のゝゝゝるゝ志ゝ　山彦
はをゆく螺もまり物極　釈　定助
乳すゝひのゝくゝ長ゝ時面ゝ　尺魚
本色や何は貴とはとゝ家　スルカ　子未

ゆりゆりと旅中の冬近し　十二八　鳳鳥
梅植し跡は白湯の香に暇かな、　庵十
似雲すゝむ芸に是ありも追風、　福米
きりぎりす北飛えつれ鉄白風　秋原
深山鳥をもいはるゝ菊や芳む　雉也

旅中此吟二句
笹原や影くらべを泊ん舌れ先　花光更　遷番
岐の夢の影をも照る月見かな　桂児
方丈やきりきりを晴さ草まくら　薫仰

九月十六日風外と共に嫁捨山に行
はてあれし月もその秋の嫁ゝ石　南窗
猿猴しつゝ見え余情秋露待ちし　完策
何とも理屈露け月見かな　桃色
沙身秋ひとり称の名のかし老ぬ　波月
樵子の此聴ゆき旅もち俤ひとり先　コド　黒路
雪二朝や峰ひとつ帰りし替町、　蕪山
芭蕉翁あしらひかりし姥捨の　そし旅よぬゝつきぞかし
婦も果てありふてる人柴植　加年

解脱の枝を折る白雲を焼く焔

市ふるさとの風情霧や晴るるらん　撫雲

八重咲うみを呼ばうすゆきの　霞岳

傾城花嫁を吹くうれしうれし　玉渕

牡丹花さうも赤しゑすすき　楚雲

六花散るうつくしうつくしう　飛改

鶯うれうへよ咲いり梨子のそれ　養之

うけうふ雑を吹て蕎うゑ　飢豆

能接ぎ登源寺北四つ半　柳好

きのふもらひ茶を炮ぜる色　之

茂蔦よ鶯老月北に入て　豆

ゑひのうつる風のそよ吹く　好

能舞亭にて

さゝ雪に小笹世よ赤ゑ加ゑれ　六花

赤蕾ゑ蕾ゑ蕾ゑいを　行雪

旅ゑうれ春巻ゑ帯締て　李虎女

却ゑ空ゑたゑ赤のひやう　岩泉

向ふ人の呼ゑ世ゑ山の月　紫苑

[illegible]乾く芋乃茶のめし　[illegible]詩
と[illegible]望を[illegible]　吟空
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]れた止
[illegible]や節分の日を養ひ[illegible]　スルガ　麦次
扶あ[illegible]北を鄭々姉[illegible]や初　桜　栖人
橘[illegible]　[illegible]を[illegible]る　白魚
妻浦う浦石羅[illegible]人を陶門雲[illegible]の
門[illegible]
[illegible]
吉を[illegible]　恵
仏慰[illegible]　[illegible]　三賈
[illegible]

花屋菴にて

小百姓家の見物のもの

恵　　参測

[illegible]

これも十余の作なり

此君を[illegible]

恵　　芦径

[illegible]

四方菴

[illegible]

恵　　

[illegible]

[illegible]

澧水

時雨の[illegible]

恵　　雅吸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月十三夜相撲の[illegible]

国城[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信分　　素礫

己上

附尾

六花苑主人

おくるまや松の雪をわけ流す流れ　雪恵

樗ちるゆふべの笠の草　笠

枇杷色のゆれてもきめぬ撰び　恵

山ほあるさうり日しをぬりうり　恵

泊つくと夢の共ふる月の海　笠

萩ほ張みて猴とゆ先ふ　恵

松の風伊勢の海と借景し　笠

徒なうほ弥むりさ雨しよ　恵

ちをとるゆるく松の中隠　笠

むのふるを雑うさ先つれ　恵

ほ如うも公の定め羽よつす毛中　笠

川ちと雲のふうふみちのく　恵

麻毛栗毛月ふ人を家静め　笠

沙清ほすむ青の漁ふう　恵

東ぢくと霧の古ふを被うけ　笠

ふうけの雪も花ぢちほく　恵

鳥追に戸々を敲の里て静まれ　笠
篠も化して借てふ蒼そら　恵
いつちへか捲川との舟か出ん　、
焚ち茶吹きし角すかして　笠
躑躅菖け盥あらへと鶏か鳴　恵
ありとのせ代小ゆしはあらへ丸　笠
名葛書を京小は休すむ日の來　恵
淀屋か床の黒檜急なれ　笠
抹ぬとせめくむの思ひの揃ふや　恵

話ゆうえともさ揺り結すけん　笠
志たしくし岩尾小ゆるる楼る吹　恵
うへは冥くちおつ糸別る　笠
月の奥腰赤簷能時免えし　恵
木犀洗て嘘了しやす哉　笠
めつそうはそ郷な眼迎て薩摩小そ　恵
樽の柄ありて乾くとし　ひき　笠
出るも弱くとはしてぬうちの級の絶　恵
そのいとも終まり川嘉の迷ふよ　笠

花ちるかをみそらの民部さや　意
涙まさいたく不金の嘆　笠

芭蕉翁賛成了

菊花花月花〳〵と落て来り　六鶴
短夫孤足は対面〳〵放生舎　秋亳
いつの月不雲不晴れり蘭粉　六義
ちるを花吹も来しこの月　柳条
ぶくれ〳〵柳のもとに雅菓子　花山
鼠ちるおもひ侍のちの月哀れ　美古

四花波ゆ中をおちられて年月百　ナニハ
二日めも外不名を柳〳〵ちるの　故人　柳水
旅花ちらすや〳〵花ふう保と世　扇留
景と鳴也　様と言しとおのふ秋ち　秋柳　弾石
苟薬や　雅好ふるひとちるの　可耕

丁丑歳晩の雅と六花苑ふ雄〳〵

言花形とも〳〵おるふやとちられ　故人　有隣
言霧ちるとちふ〳〵ちうおふ明日　スルカ　景山
茶の戸や言の来さのとるの後　退岩

嵐雪伊吉山へ登るに送る

高〳〵ときひの裏れ宮〳〵冥寿　去松館

六花苑のまむすひあり〳〵

嵐雪孔雀陣とこの所の小景　快雪猫

緩寿

宮〳〵の所の花もの所のうつくしやとて　秋甲

板まの所〳〵ふるとてとをく

ゆるとて小景孔雀陣　寒定

すきあり〳〵ありしそれとなへられ

跋

玉匂雪婦あの生涯を事とし俳

徒を清〳〵雅情をたゝく六花苑

乃其舟宮金馬門ゆ陵を廻るの徒ゆ

宮〳〵金馬門ゆ陵を廻るの徒ゆ

やあ〳〵ん去年〳〵跋をこ爰庭中

うめの古木をもて芭蕉翁の

像を彫〳〵ふ生るゆ八葉名の事歴

ゆ著〳〵ん〳〵し去年〳〵爰成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

浪速

八千房屋烏頭

唐和寫本其外古理類賣買
並古彫板古彫刻出請合書物
仕立物等念入仕上

神田新橋冨松町
江戸書賣 清德堂 丹後屋伊兵衛